



にしむらがくとです。
移住相談センターで
動画を担当しています。
趣味は、アニメ・ゲー
ム・キャンプなど。

地域おこし協力隊
(東京都葛飾区から転入)

西村 岳登

面白そうだからやってみよう 20代協力隊のリアル

「松田さんは、移住相談センターのHPを読み込んで、どんなことがやりたいか考えて来たみたいですが、僕はそこまでプランはなかったです。スマホ教室(前職の経験から)とか、写真をSNSに投稿するくらい。」

秩父を選んだのは「あの花きっかけ*」、他の転職先は「特に考えてなかった」。さすが20代、移住・転職にそんなにハードルを感じないのかもしれない。今回は移住相談センター最年少の西村さんを深掘り(したけど、西村さんは西村さんでしかなかった! 本当に裏表がない、もちろん良い意味で!)

*秩父が舞台となったアニメ『あの日見た花の名前を僕達はまだ知らない。』をきっかけに移住等を意味する

ガジェットいじりが大好きな少年 まずは自衛隊に入る

最初に手にしたのはカメラで、4、5歳の時。電車を撮るためです。中学校に上がってからは、風景を撮っていました。その頃東日本大震災で自衛隊の被災地での活動を知り、憧れるようになりました。高校を卒業してすぐ陸上自衛隊に入って、配属されたのは高射特科(ミサイル部隊)。本当は、機械を駆使する情報科や車両を運転する輸送科がよかったのですが、自衛隊は、年間の訓練スケジュールが決まっていて、それをこなすという感じ。基本定年まで決まったレールに乗ってだけで、自分のやりたいことと違うと気づき、次の仕事を考え始めました。

携帯電話会社での接客が今の 移住相談につながっている

スマホも得意だし、人と接するのが好きだったので、携帯会社に転職し、店舗の販売スタッフとして働きました。ただ、販売店ゆえ売るのが第一というのにだんだん気持ちが追い付かなくなって、スタッフを支える側に回ることにしました。スタッフや店長の相談役として店舗評価に貢献していたと思います。東京の忙しい生活の中で地方に行きたいと思うようになり、前から興味があった地域おこし協力隊を調べてみたら、ちょうど秩父市の採用を見つけました。接客の経験が相談業務でも生かせると思って応募しました。

日々動画を制作中

松田さん企画の「つながる、ちちぶ」取材で撮影をしたことをきっかけに、映像を撮って編集するようになりました。最近では、地域のイベントの動画制作を依頼をされることもあります。また横瀬町の協力隊(映像のプロ)のお手伝いをしながら勉強させてもらっています。

制作を通してめきめき実力を上げているとメンバーからの評判も上々です。

西村さんが制作した動画は、Youtubeチャンネル「秩父市移住相談センター」から見られます！

<https://www.youtube.com/watch?v=MYKL7vHaCRA>

他の分野で活躍する地域おこし協力隊の紹介動画もぜひ。普段なかなか表に出ない活動を雰囲気も合わせて知ることができます。



2022年12月、3年ぶりに開催された「秩父夜祭」。地域のお祭りに移住者として山車を曳くのに参加させてもらえたのは、日頃のボランティア活動(上町ホテルの会)のお手伝いが認めてもらえたから。

こんなことをやっていきたい

移住相談センターのミッションは、「秩父で暮らす」イメージの発信ですが、「暮らす」目線の動画を作りたいです。観光スポットをPRするために綺麗に撮った動画は再生回数が伸びるのですが、暮らす日常を切り取り、かつ多くの人に見てもらえる動画、というのが課題です。秩父のそれぞれの地域の特色を捉えたエリア別の動画も作りたいです。協力隊の活動を通して動画制作という自分に合ったもの、武器にしていけそうなものを見つけることができました。退任後も続けるつもりで、もしかしたら一度修行に出るかもしれません。

おまけ▶西村さんにとっての移住相談センターのメンバー

松田さん▶カメラの師匠。ISO、露出、シャッター速度を教わり、写真の幅が広がりました。今は人が撮影した写真を見てもそれらがわかります。末村さん▶相談業務のやり方とITの知識を教わりました。特にショートカットキーは超便利。アニメ仲間でもあります。松本さん▶色々相談に乗ってくれて人の紹介もしてくれます。一緒に写真を撮りにも行きます。中島さん▶理想の上司。仕事が早くて気配りができて、ご飯にも連れて行ってくれるボスです。

「つながる、ちちぶ」の取材時。動画の撮影をしています。隣は絶大な信頼を置く我らがボス、中島さん(総合政策課職員・移住相談センター担当)



令和5年3月発行